

2011年度

入学試験問題

国語

50分

1. 受験番号・氏名を解答用紙に書くこと。
2. 受験番号は算用数字で書くこと。(例:123)
3. 答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 配布されたもの以外の下じき・用紙は使わないこと。
5. 用紙を立てて見ないこと。
6. 質問(印刷不明のところだけ)のある場合、鉛筆などを落とした場合、トイレに行きたくなった場合、気持ちのわるくなった場合は、だまって手をあげること。

【一】 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。(1)～(9)は段落番号です。

(1) 人が他人の気持ちを知るといふことは簡単なことではありません。自分が経験したことしか理解できないのであれば、想像力の欠けた動物といつしよですが、想像力にも限界があるのも確かです。建築を学ぶ大学生に子どもの頃の空間体験を尋ねることがありますが、思いのほか子どもの頃のリアルな体験を思い出せない人がいます。二〇歳前後の学生にとって、つい一〇年前のできごとではないかと思うのですが、難しいようです。ましてや、これから何十年か後にやってくる老いた自身の姿に対するリアルな想像はさらに困難です。

(2) 中学生がユニバーサルデザインの体験学習をするというので、アドバイスをするようになりました。ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、身体的特徴などの違いにかかわらず、すべての人が使いやすい道具や建物、まちのデザインをめざそうとする考え方です。障害者を対象とする（注）バリアフリーの概念にとどまることなく、すべての人を視野に入れようとする点で大きな期待が寄せられています。老人体験を通じて、学校の校舎やまちの歩道、バス停、駅、庁舎、銀行などの問題点を発見し、改善提案を行おうとするものです。中学生にとって、年をとるといふことはどのように理解されているのでしょうか。中学生は、精神的にも身体的にも人生の中で最も成長の激しい時期であり、

① ことを、毎日体感している希望あふれる世代です。これに対して、お年寄りとは

② ことを認めざるを得ない世代です。

(3) はじめに、見る、持つといった基本的な能力が衰える（おとろ）ことになるか体験します。視力の低下、視野の（注）狭窄を体験するためにアイマスクを装着します。とたんに教科書の文字が読みにくくなり、教科書をほとんど鼻先まで近づけています。文字をスムーズに追うこともできません。もちろん数メートル先の黒板の文字もすらすらと読むことができません。次に、指先を使った細かい作業がしにくくなることを体験するために軍手を二重にしてはめます。机の上に置かれたいくつかの百円玉と五百円玉の中から百円玉をつまむよう指示しますが、それが簡単ではありません。どれが百円玉か、すぐにわかりません。わかつてても容易につかむことができません。何でもないことにひどく手間がかかることに、少しいらだっている様子が見えます。

(4) その次に、老人の筋力の衰えを体験するために、足のひざの動きを拘束する装具を装着します。重りの入った装具をひざのまわりに巻きつけると、ひざが自由に動かなくなり、重りがつくことで機敏な動きが妨げられます。背筋を伸ばすことが難しくなり、ひざが中途半端に曲がったぎこちない格好になります。それだけでも不自由で、すぐに腰掛けたくくなります。そのまま友だちの手助けを借りながら、校内にある階段の昇降を試してみます。転倒が怖いのか、誰もが真つ先に手すりにつかまります。手すりのありがたさが初めてわかります。ふだんは、はねるように階段を上り下りしている彼らにとって、手すりはほとんど縁のないものでした。とくに下

(5) りることが難しく感じます。疑似体験装具をつけて階段を下りることで、初めて階段の鼻先にある滑り止めの意味や、その色彩の見やすがどれほど重要なことがわかるのです。

(6) ひととおり③校内での老人疑似体験をすませると、いよいよまちへ繰り出します。車椅子に乗った中学生がグループごとに次々とまちへ出かけます。車椅子の操作に慣れないうちは、歩道のわずかな傾斜に抵抗することができないために、転倒しそうになったら黄色い歓声を上げています。運動神経がよいのですぐに車椅子の操作に慣れ、中にはスロープをかなりのスピードで滑走する子も出てきます。そうしている間は、仲間どうし新しい乗り物を得て楽しんでいる段階です。

(7) かなり広めの交差点にきた時、「では、一人で車椅子に乗って誰の助けも借りないで道路を横断してみてください」という指示が与えられると、お互いが顔を見合わせて、④一瞬の沈黙が過ぎました。「まさか」という空気が流れるのがわかります。気心の知れた仲間どうしでワイワイやっている間は、何だか楽しい老人体験実習でした。しかし、一人放り出されるとなると事情が違います。車椅子の操作に慣れたとはいえ、一人で道路を横断するのは簡単に決断するわけにはいきません。時間の限られた青信号の間に、もし渡り切れないような事態が起こった場合には、車の渋滞を引き起こす可能性がありますし、何よりも尋常ではすまない身の危険が想像できるからです。一人暮らしのお年寄りの日常に漂う緊張感が、一瞬にして理解されます。

(8) こんな場面もありました。地下鉄の駅構内が車椅子を使う障害者にどのような配慮をしているか調べようと出かけた時のことです。例のごとく、グループで車椅子を交代しながら、エレベーターの到着を待っていると、到着したエレベーターの扉が開くと同時に、数名の着飾った中年女性が出てきました。女性のうちの一人が、車椅子に乗った中学生の女の子と、車椅子を介助する女の子の姿を見合せています。車椅子探検をしているだけであって、かわいそうでも何でもないという事情を説明し、誤解を解く機会が得られなかった不本意な気持ちがありました。しかし、その気持ち以上に自分たちも車椅子の人に対して、そういう何か表面的な接し方しかしてこなかったのではないかというのを強く思い起こさせる一言でした。

(9) 物理的なバリアーは技術が解決してくれそうですが、人の気持ちを本心に理解することの難しさを思い知らされました。お年寄りに対して「もっと早く歩けないのかなあ」と思っている自分の反対側には「もっとゆっくり歩けないのかなあ」と思っているお年寄りがいるかもしれないのです。⑤「人にやさしいまちづくり」というスローガンを掲げること、人の行動のバリアーとなる障害物が取り除かれるようになり、お年寄りや障害をもつ方には以前に比べ見違えるほど便利なまちになりました。しかし、物理的解決がすべてではないという現実も見えています。公共交通の駅周辺の歩行者通路には視覚障害者のために誘導ブロックが設置されています。しかし、その誘導ブロックを塞ぐように自転車や駐輪されています。これでは意味がありません。車椅子利用者の上下移動を容易にするため

のエレベーターもかなり整備が進みました。ところが健常者もエレベーターを利用するために、通勤時などは結構混雑し、車椅子利用者が気兼ねなく乗り込める状況にはありません。こんな状況を批判して、「人に」ではなく⑥「人が」優しいまちづくりであるべきだという主張もされています。

(9) 環境がいくら整備されても、人の気持ちが理解されないような荒廃したまちには住みたいと思いません。

(鈴木賢一「子どもたちの建築デザイン」による)

(注1) バリアフリー＝身体障害者や高齢者が生活を営む上で支障がないように商品をつくったり建物を設計したりすること。

(注2) 狭窄＝すばまってしまいこと。

問一 この文章を大きく三つに分けるならば、第二の部分・第三の部分はどの段落からですか。それぞれ段落番号で答えなさい。

問二 空欄①・②に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものはどれですか。

ア ① 昨日までできなかったことが今日にはできるようになる

② 昨日までできたことが今日にはできなくなる

イ ① 昨日まで覚えていた嫌なできごとを今日には忘れてしまう

② 昨日まで忘れていた嫌なできごとを今日は思い出してしまう

ウ ① 昨日までの生活と今日の生活に大きな変化が生じる

② 昨日までの生活と今日の生活に変化はない

エ ① 昨日まで知らなかった世界が今日は自分のものとなる

② 昨日まで自分のものだった世界が今日は遠いものとなる

問三 傍線部③「校内での老人疑似体験」とありますが、どのような体験ですか。「～という体験。」に続くように、四十字以内で答えなさい。

問四 傍線部④「一瞬の沈黙がおこりました。」とありますが、それはなぜだと考えられますか。

問五 どうして「『人にやさしいまちづくり』」(傍線部⑤)ではなく、「『人が』優しいまちづくり」(傍線部⑥)であるべきだという主張がなされるのですか。

【二】 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

高い波が屏風を立てつらねたように押し寄せて来ました。私たち三人はちょうど具合よくくだけないうちに波の背を越すことが出来ました。私たちは体をもまれるように感じながらもうまくその大波をやりすごすことだけはできたのです。三人はようやく安心して泳ぎながら顔を見合わせてにこにこしました。そして波が行ってしまふと三人ながら泳ぎをやめてもとのように底の砂の上に立とうとしました。ところがどうでしょう、私たちは泳ぎをやめるといっしょに、三人ながらずぼりと水の中にもぐってしまいました。水の中にもぐっても足は砂にはつかないのです。私たちは驚きました。あわてました。そして一生懸命に「めんかきをして、ようやく水の上に顔だけ出すことができました。その時私たち三人がたがいに見合わせた目といったら、顔といたらありません。顔は真っ青でした。目は飛び出しそうに見開いていました。今の波一つでどこか深い所に流されたのだということを私たちはいい合わさないでも知ることができたのです。いい合わさないでも私たちは陸の方をめぐって泳げるだけ泳げなければならぬということがわかったのです。

①三人は黙ったままで体を横にして泳ぎはじめました。けれども私たちにどれほどの力があつたかを考えてみてください。Mは十四でした。私は十三でした。妹は十一でした。Mは毎年学校の水泳部に行っていたので、とにかくあたり前に泳ぐことを知っていましたが、私は横のし泳ぎを少しと、水の上にあお向けに浮くことを覚えたばかりです。妹はようやく板を離れて二、三間泳ぐことができるだけなのです。

ご覧なさい、私たちはみるみる沖の方へ沖の方へと流されているのです。私は頭を半分水の中につけて横のしでおよぎながら時々頭を上げて見ると、その度ごとに妹は沖の方へと私から離れてゆき、友達のMはまた岸の方へと私から離れて行って、しばらくの後には三人はようやく声がとどくくらいおたがいに離ればなれになってしまいました。そして波が来るたびに私は妹を見失ったりMを見失ったりしました。私の顔が見えると妹は後の方からあらん限りの声をしばって

「兄さん来てよ……もう沈む……苦しい」

と呼びかけるのです。実際妹は鼻の所くらいまで水に沈みながら声を出そうとするのですから、その度ごとに水を飲むとみえて真っ青な苦しそうな顔をして私をにらみつけるように見えます。私も前に泳ぎながら心は後ろにばかり引かれました。幾度も妹のいる方へ泳いで行こうかと思いましたが、けれども私は悪い人間だったとみえて、こうなると自分の命が助かりたかったのです。妹の所へ行けば、二人ともいっしょに沖に流されて命がないのは知れ切っていました。私はそれが恐ろしかったのです。何しろ早く岸について漁師にでも助けに行ってもらうほかはないと思いました。今から思うとそれは②ずるい考えだったようです。

でもとにかくそう思うと私はもう後ろも向かずに無我夢中で岸の方を向いて泳ぎだしました。力がなくなりそうになるとあお向けに水

の上に寝てしばらく息をつきました。それでも岸は少し近づいて来るようでした。一生懸命に……一生懸命に……、そして立ち泳ぎのようになつて足を砂につけてみようとしたら、またずぶりと頭までもぐってしまいました。私はあわてました。そしてまた一生懸命で泳ぎました。

立つてみたら水がひざの所くらいしかない所まで泳いで来ていたのはそれからよほどたつてのことでした。ほつと安心したと思うと、もう夢中で私は泣き声を立てながら、

「助けてくれえ」

といつて砂浜をかけずりまわりました。見るとMははるかむこうの方で私と同じようなことをしています。私はかけずりまわりながらも③妹の方を見ることを忘れはしませんでした。波打ちぎわからずいぶん遠い所に、波に隠れたり現われたりして、かわいそうな妹の頭だけが見えていました。

浜には船もいません、漁師もいません。その時になつて私はまた水の中に飛び込んで行きたいような心持ちになりました。大事な妹を置きっぱなしにしてきたのがたまらなく悲しくなりました。

その時Mがはるかむこうから一人の若い男の袖を引っぱつてこつちに走ってきました。私はそれを見ると何もかも忘れてそつちの方にかげだしました。若い男というのは、土地の者ではありましようが、漁師とも見えないような通りがかりの人で、肩に何かかついていました。

「早く……早く行つて助けてください……あすこだ、あすこだ」

私は、涙を流し放題に流して、地だんだをふまないばかりにせき立てて、ふるえる手をのばして妹の頭がちよつぱり水の上に浮かんでる方を目指しました。

若い男は私の指す方を見定めていましたが、やがて手早くかついでいたものを砂の上におろし、帯をくるくると解いて、着物をいっしょにその上におくと、ざぶりと波を切つて海の中はいつて行つてくれました。

私はぶるぶるふるえて泣きながら、両手の指をそろえて口の中へ押しこんで、それをぎゅつと歯でかみしめながら、その男がどんどん沖の方に遠ざかつて行くのを見送りました。私の足がどんな所に立っているのだから、寒いのか、暑いのか、すこしも私には分かりません。手足があるのだからいのだかそれとも分かりませんでした。

④抜き手を切つて行く若者の頭もだんだん小さくなりまして、妹とのへだたりがみるみる近よつてゆきました。若者の身のまわりには白い泡がきらきらと光つて、水を切つた手がぬれたまま飛魚が飛ぶように海の上に現われたり隠れたりします。私はそんなことを一生懸命に見つめていました。

とうとう若者の頭と妹の頭とが一つになりました。私は思わず指を口の中から放して、声を立てながら水の中にはいつてゆきました。けれども④二人がこつちに来るののおそいことおそいこと。私はまた何のわけもなく砂の方に飛びあがりました。そしてまた海の中にはいつてゆきました。どうしてもじつとして待つていることができないのです。

妹の頭は幾度も水の中に沈みました。時には沈み切りに沈んだのかと思うほど長く現われて来ませんでした。若者もどうかすると水の上には見えなくなりました。そうかと思うと、ぼこんとはねあがるように高く水の上に現われ出しました。なんだか⑤曲泳ぎでもしているのではないかと思われるほどでした。それでもそんなことをしているうちに、二人はだんだん岸近くなつてきて、とうとうその顔までがはっきり見えるくらいになりました。が、そこいらは打ち寄せる波がくづれるところなので、二人はもろともに幾度も白い泡の渦巻きの中に姿を隠しました。やがて若者ははうようにして波打ちぎわにたどりつきました。妹はそんな浅みに来ても若者におぶさりかかつていました。私は有頂天になつてそこまで飛んでゆきました。

飛んでいつて見て驚いたのは若者の姿でした。せわしく深く息をついて、体はつかれ切つたようにゆるんでへたへたになつていました。妹は私が近づいたのを見ると夢中で飛んできました。がふつと思いかえたように私をよけて砂山の方を向いてかけだしました。その時私は妹が私をうらんでいるのだなと気がついて、それは無理のないことだと思つと、この上なくさびしい気持ちになりました。それにしても友達のMはどこに行つてしまつたのだらうと思つて、私は若者のそばに立ちながらあたりを見まわすと、はるかな砂山の所をおばあ様を助けながらかけ下りて来るのでした。妹は早くもそれを見つけてそつちに行こうとしているのだとわかりました。

それで⑥私は少し安心して、若者の肩に手をかけて何かいおうとすると、若者はうるさそうに私の手をはらいのけて、水の寄せたり引いたりする所に座りこんだまま、いやな顔をして胸のあたりをなでまわしています。私はなんだか言葉かけのさえためらわれて黙つたまま突つ立っていました。

「まああなたがこの子を助けてくださいましたんですね。お礼の申しようもございません」

すぐそばで息せき切つてしみじみといわれるおばあ様の声を私は聞きました。妹は頭からずぶぬれになつたままで泣きじゃくりをしながらおばあ様にびつたり抱かれていました。

(有島武郎「溺れかけた兄妹」による)

(注1) めんかき＝顔をあげたまま手で水をかくようにする泳ぎ方。

(注2) 横のし泳ぎ＝水面にからだを横にのばして手で水をかく泳ぎ方。

(注3) 二、三間＝四、五メートル。

(注4) 抜き手を切る＝水をかいた手を水面上に出して泳ぐ。

(注5) 曲泳ぎ＝難しい技術を使った曲芸のような泳ぎ。

- 問一 傍線部①「三人は黙ったままで体を横にして泳ぎはじめました。」とありますが、なぜ三人は黙ったまま泳ぎはじめたのですか。
- 問二 傍線部②「ずるい考え」とありますが、どのような点がずるいのですか。
- 問三 傍線部③「妹の方を見ることを忘れはしませんでした。」とありますが、それはなぜですか。
- 問四 傍線部④「二人がこつちに来るののおそいことおそいこと。」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
- ア 若者が実は外見ほど若くも元気でもなく、妹を助けるためにひどく無理をしているから。
- イ 「私」の体があまりの恐ろしさにふるえ、二人の姿をよく見ることができないから。
- ウ 水の中に沈んだり浮かんたりしているうちに、若者が岸の方向を間違えてしまったから。
- エ 妹を連れて泳ぐのは大変なうえに、「私」が妹の到着を待ちわびてあせっているから。
- オ 妹と一緒に泳ぐ若者が、「私」をこらしめようとして、わざとゆっくり泳いでいるから。
- 問五 傍線部⑤「私は少し安心して」とありますが、なぜ安心したのでしょうか。

【三】 次のカタカナの部分の漢字に直しなさい。

- | | | | | | |
|---|------------|----|----------------|----|-------------|
| 1 | テチヨウに記入する。 | 6 | コクモツを輸入する。 | 11 | 痛みがオサまる。 |
| 2 | お寺にあるボチ。 | 7 | シユクシヤク千分の一の地図。 | 12 | イキオいのあるチーム。 |
| 3 | フランスのコツキ。 | 8 | 新しいナイカクが成立する。 | 13 | 薬がキク。 |
| 4 | 陸上キヨウギの大会。 | 9 | 選挙のトウヒョウに行く。 | 14 | 心にキザむ。 |
| 5 | 古いチソウを調べる。 | 10 | シヨウボウシヨに通報する。 | 15 | 試合がハジまる。 |

氏名

第二の部分

第三の部分

1. *Journal of the American Medical Association*, 1997; 277: 1033-1038.

[illegible]

という体験。

1. The first part of the document is a title page. It contains the title of the document, the author's name, and the date of the document.

--	--

--	--

[illegible]

Downloaded from <http://ajphaphapublications.sagepub.com/> at National Archive Publishing Co on May 12, 2015

11	6	1
まる		
12	7	2
い		
13	8	3
く		
14	9	4
む		
15	10	5
まる		